



TITLE:

京大広報 No. 460

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 460. 京大広報 1994, 460: 690-705

ISSUE DATE:

1994-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209176>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 460

京都大学広報委員会



導入されたカリステンモン —関連記事本文702ページ—

目 次

<大学の動き>

部局長の交替等	691
平成5年度の停年退職教官	691
平成6年度入学者選抜学力試験 (第2次学力検査)の期日等	695
平成5年度国立学校施設整備事業の決定 (追加)	696
本学における歴史的建築物の指定	696
アメリカンフットボール部クラブハウスの完成	699

京都大学市民講座「かかわり」講演要旨

(その2)	699
-------	-----

<紹介>

農学部附属演習林白浜試験地	702
計報	703

<随想>

「評価」といふこと	名誉教授 酒井 修	704
-----------	-----------	-----

<コラム>

定年間際のOA革命	野田 宣雄	705
-----------	-------	-----

<大学の動き>

部 局 長 の 交 替 等

霊長類研究所長

久保田 競 霊長類研究所教授 (行動神経研究

部門担当) が 1 月 16 日 霊長類研究所長に再任された。任期は平成 8 年 1 月 15 日までである。

平成 5 年度の停年退職教官

京都大学教員停年規程により、次の方々 (教授 59 名, 助教授 4 名, 講師 2 名, 助手 1 名) が, 本年 3 月 31 日付けで退職される。

部 局 ・ 職 名	氏 名	生年月日	出身地 出身校	講 座 等	研 究 分 野
総合人間学部 教 授	米 山 俊 直	昭和 5. 9. 29	奈 良 京 大	国際文化学科 文化構造論講座	文化人類学, 農村社会学, 都市人類学 の分野におけるアフリカ地域の農 耕民社会及び都市の祭礼の研究
〃	小 寺 昭次郎	〃 6. 3. 16	長 崎 京 大	国際文化学科 文明論講座	現代ドイツ文学, 特にワイマール共 和国期のドイツの社会と文学に関す る研究
〃	野 村 修	〃 5. 10. 9	千 葉 京 大	国際文化学科 文明論講座	現代ドイツ文学, 特にブレヒトとベ ンヤミン等を中心とした思想と文学 に関する研究
〃	山 田 稔	〃 5. 10. 17	福 岡 京 大	国際文化学科 言語文化論講座	19 世紀のフランス小説 (バルザッ ク, ゾラ, フロベール) の研究及び 仏和辞典の編纂
〃	上横手 雅 敬	〃 6. 3. 7	和歌山 京 大	国際文化学科 日本・中国文 化・社会論講座	平安～南北朝時代の歴史について, 政治史を中核に法制, 社会, 文化等 を含めた総合的研究
〃	濱 田 啓 介	〃 5. 8. 11	兵 庫 京 大	国際文化学科 日本・中国文 化・社会論講座	読本を中心とする近世小説史の研究
〃	佐 野 哲 郎	〃 6. 2. 6	大 阪 京 大	国際文化学科 欧米文化・社会 論講座	W.B. イエイツを中心とした古代か ら現代に至るアイルランド文学の研 究
〃	藤 家 龍 雄	〃 5. 8. 1	兵 庫 京 大	基礎科学科 数理基礎論講座	解析写像の境界における挙動につい ての研究
〃	若 野 省 已	〃 5. 5. 5	大 阪 京 大	基礎科学科 自然構造基礎論 講座	素粒子論及び一般相対性理論におけ る諸問題の理論的研究
〃	西 村 三 郎	〃 5. 6. 29	青 森 京 大	自然環境学科 生物・地球環境 論講座	地球生物学及び同学史に関する研究
文 学 部 教 授	中 川 久 定	〃 6. 3. 15	東 京 京 大	文 学 科 フランス語学・ フランス文学第 一講座	フランス文学史, 特に 18 世紀文学史 の研究及び日仏比較文学の研究
〃	岡 道 男	〃 6. 1. 4	大 阪 京 大	文 学 科 西洋古典語学・ 西洋古典文学講 座	古代ギリシア・ローマ文学, 特に叙 事詩, 抒情詩, 悲劇, 詩論 (文芸 論) の研究

部 局 ・ 職 名	氏 名	生年月日	出身地 出身校	講 座 等	研 究 分 野
教育学部 教授	三 好 曉 光	昭和 5. 5.10	京 京 都 大	教育心理学 臨床心理学講座	精神分裂病者への心理療法的接近を 介しての精神病理学的研究及び境界 例に対する心理療法的研究
大学院 法学研究科 教授	川 又 良 也	〃 6. 2. 9	滋 賀 大 京 京	民刑事法専攻 商事法講座	海商法の比較法的研究及び国際取引 上の諸問題の抵触法的解決に関する 研究
〃	中 澤 巷 一	〃 5. 7. 1	兵 庫 大 京 京	基礎法学専攻 法史学講座	日本の前近代社会の法源の基礎的研 究、特に藩法、近世身分法の分野の 研究
経済学部 教授	飯 野 春 樹	〃 6. 2. 8	京 京 都 大	経営学科 経営政策講座	経営学説史のうち特にバーナード理 論に関する研究
理学部 教授	遠 藤 裕 久	〃 5. 5.26	愛 知 大 東北 大	物理学 結晶物理学講座	構造不規則系に関する物性—液体金 属・半導体の構造と電子状態—に関 する研究
〃	恒 藤 敏 彦	〃 5. 8.10	京 京 都 大	物理学 極低温物理学講 座	超伝導・超流動を中心とする物性の 理論的研究
〃	田 中 豊	〃 5. 4.20	兵 庫 大 京 京	地球物理学 地殻物理学講座	地殻変動観測と地殻応力測定による サイスモテクトニックスの研究
〃	米 田 満 樹	〃 5. 4. 6	神 奈 川 大 東 大	動物学 発生生物学講座	減数分裂及び卵割の周期性に関する 研究
〃	辻 英 夫	〃 5.11.16	京 京 都 大	植物学 植物環境応答機 構解析学講座	植物の発生・分化における制御機構 の生理生化学及び分子生物学的研究
医学部 教授	山 室 隆 夫	〃 6. 1.19	京 京 都 大	医学 整形外科講座	整形外科学、特に先天股脱の病因と 予防、四肢悪性腫瘍に対する術中照 射、人工骨と人工関節の開発の研究
〃	木 村 敏	〃 6. 2.15	岐 阜 大 京 京	医学 精神医学講座	内因性精神病、特に精神分裂病と躁 うつ病に関する精神病理学的研究
薬学部 教授	田 端 守	〃 6. 3.17	和 歌 山 大 京 京	薬学 生薬学講座	薬用植物並びに培養細胞の二次代謝 調節機構及び薬理活性物質の探索と 生産に関する研究
〃	藤 多 哲 朗	〃 6. 1. 4	京 京 都 大	製薬化学 薬用植物化学講 座	菌類・植物の生物活性二次代謝産物 に関する化学的研究
工学部 教授	吉 川 和 広	〃 5. 4.29	福 島 大 京 京	土木工学科 土木計画学講座	土木計画学の科学的体系化に関する 研究、地域計画、交通計画のシステ ムズ・アナリシスに関する研究
〃	卯 本 重 郎	〃 5. 4.19	広 島 大 京 京	電気工学科 電気磁気学講座	電磁気学等の基礎方程式の数値解析 法の研究開発とその電力系統、電気 機器、MHD 発電への応用に関する 研究
〃	岡 田 隆 夫	〃 5.11.18	京 京 都 大	電気工学科 超伝導工学講座	超伝導工学、電気機器及び電力系統 工学に関する研究
〃	寺 井 俊 夫	〃 6. 1.23	福 井 大 京 京	建築学 建築設備講座	建築空調、換気設備に関する研究、 建築の熱及び音場に関する研究
〃	岩 井 壯 介	〃 5. 5.14	京 京 都 大	精密工学科 システム工学講 座	知識情報処理と知的システム構築に 関する研究

部 局 ・ 職 名	氏 名	生年月日	出身地 出身校	講 座 等	研 究 分 野
工 学 部 教 授	佐 藤 進	昭和 5. 9.13	大 京 阪 大	精密工学科 振動工学講座	機械システムの振動・騒音の発生源 の解明と制御に関する研究
〃	金 罌 潔	〃 5. 8.21	大 京 阪 大	建築学第二学科 鉄骨構造学講座	鉄骨構造学に関する研究, 建築構造 学的研究及び建築保存工学に関する 研究
〃	西 川 幸 治	〃 5.12.20	滋 京 賀 大	建築学第二学科 地域生活空間計 画講座	都市構成に関する史的考察, 地域文 化財の保存修景計画に関する研究, ガンダーラ遺跡の総合的学術調査
〃	一 瀬 光之尉	〃 5. 8.18	京 京 都 大	材料化学専攻 有機材料化学講 座	工業分析化学, 機器分析工学, 脂質膜 中の機能性ペプチドの構造解析, 神 経伝達物質の生体計測に関する研究
〃	上 原 悌次郎	〃 5. 7.27	佐 京 賀 大	材料化学専攻 有機材料化学講 座	細胞生化学及び微生物化学に関する 研究
〃	川 端 季 雄	〃 6. 3.10	奈 京 良 大	高分子化学専攻 高分子物性講座	高分子固体力学及び繊維工学に関す る研究
〃	佐 田 榮 三	〃 5.11.28	愛 京 知 大	合成・生物 化学専攻 生物化学講座	物質移動操作及び生物化学工学に関 する研究
〃	平 岡 正 勝	〃 5.12.10	広 京 島 大	環境地球工学専攻 環境情報工学講 座	大気汚染, 水質汚濁, 廃棄物等の環 境汚染現象の解析と予測, 制御の技 術とシステムの開発に関する研究
〃	佐佐木 綱	〃 6. 1. 7	香 京 川 大	環境地球工学専攻 人間環境設計学 講座	運輸交通計画及び交通工学に関する 研究, 風土分析と町づくりに関する 研究
農 学 部 教 授	久 馬 一 剛	〃 6. 1.13	京 京 都 大	農芸化学科 土壌学講座	わが国及び熱帯の土壌について, そ の生成過程の解明, 肥沃度の評価を 行い土地利用の適正化を可能にする 研究
〃	常 脇 恒一郎	〃 5.11.26	福 京 井 大	農林生物学科 実験遺伝学講座	有用植物の遺伝学, 特にコムギの遺 伝・進化・育種に関する研究
〃	面 村 博 行	〃 6. 3. 4	兵 京 庫 大	農林経済学科 農業計算学講座	農業の経済計算と経営活動に関する 研究, 発展途上地域の農業開発に関 する研究
〃	野 口 昌 巳	〃 5. 6.27	長 京 野 大	林産工学科 林産機械学講座	木材加工機械, 丸鋸の新しい腰入 れ, アコースティック・エミッシ ョンによる木材の加工制御とシロアリ の探知
〃	杉 本 悦 郎	〃 5. 7.17	滋 京 賀 大	食品工学科 栄養化学講座	栄養・健康に関する細胞生化学的研 究
〃	小清水 弘 一	〃 5. 8.22	奈 京 良 大	食品工学科 農業分析学講座	植物ホルモン, 野生霊長類の薬的利 用植物成分, 天然発癌及び抗発癌プ ロモーターに関する生物有機化学的 研究
農学部附属農業 簿記研究施設 教 授	亀 谷 晃	〃 5. 5.30	富 京 山 大		日本, 諸外国の農家経済・農業経営 の経済的な構造と機能及び経済分析 方法についての比較研究
農学部附属植物 生殖質研究施設 教 授	阪 本 寧 男	〃 5. 6. 5	京 京 都 大		栽培植物の起原及び系統分化の研究 並びに栽培植物とその近縁野生植物 の遺伝資源の探索・収集・保存
化学研究所 教 授	作 花 濟 夫	〃 5.12.11	大 京 阪 大	無 機 素 材 化学研究部門	機能性ガラス及びセラミックスの合 成, 構造並びに物理・化学特性に関 する研究

部 局 ・ 職 名	氏 名	生年月日	出身地 出身校	講 座 等	研 究 分 野
人文科学研究所 教 授	古 屋 哲 夫	〃 6. 3.21	東 京 大	日本社会研究部門	近代日本の政治・外交史的研究
胸部疾患研究所 教 授	竹 田 俊 男	〃 6. 1.20	兵 庫 大	環境生態学 研 究 部 門	老化モデル動物開発・維持及び老化 基本機構、老化病態発症機序に關する 基礎的研究
原子エネルギー 研究所 教 授	森 本 武	〃 5.12. 5	兵 庫 大	原子炉材料 研 究 部 門	固体中の電子・正孔プラズマの分光 学的研究
食糧科学研究所 教 授	土 井 悦四郎	〃 5.11.12	大 阪 大	食糧化学研究部門	食品の構造と機能特性に関する研究
防災研究所 教 授	六 車 熙	〃 5.10.23	香 川 大	地盤震害研究部門	コンクリート系建築構造物・基礎構 造物の耐震工学と構造設計学に關する 研究
〃	土 屋 義 人	〃 5. 6.12	長 野 大	海岸災害研究部門	海岸漂砂及び侵食制御に関する研究
防災研究所附属 桜島火山観測所 教 授	加 茂 幸 介	〃 5. 7. 5	京 都 大		火山物理学、特に火山噴火機構及び 噴火予知計測の研究
数理解析研究所 教 授	松 浦 重 武	〃 5. 5.29	京 都 大	応 用 解 析 第一研究部門	関数解析学、偏微分方程式論、これ らの幾何学への応用などの研究
〃	高 須 達	〃 6. 1.12	東 京 大	数値解析研究部門	計算機構の研究
原子炉実験所 教 授	渋谷 巖	〃 5.10.14	佐 賀 大	低速中性子 物理学研究部門	中性子線及びX線回折による固体の 構造並びに構造相転移の研究、これ に關連する実験設備の開発研究
霊長類研究所 教 授	岩 本 光 雄	〃 5. 9.19	福 島 大	進化系統研究部門	霊長類各分類群の系統と進化に關する 比較形態学的研究
理 学 部 教 授	桑 本 融	〃 5.11.19	鳥 取 大	化 学 科 分析化学講座	イオンクロマトグラフィーに關する 分析化学的研究並びに海洋化学に關 する研究
薬 学 部 教 授	真 崎 規 夫	〃 6. 3.31	東 京 大	薬品作用制御 システム専攻 情報薬学講座	生体関連物質の構造に關する研究
化学研究所 助 教 授	林 宗 市	〃 6. 2.22	京 都 大	界面物性研究部門	分子動力学シミュレーションによる 分子集合体の研究及びカルボン酸結 晶の構造と陽子移動に關する研究
〃	木 山 雅 雄	〃 6. 3.13	京 都 大 短期 大学部	無 機 素 材 化学研究部門	酸化鉄、フェライト及び磁気記憶用 の強磁性微粉末の湿式合成に關する 研究
理 学 部 師	清 水 大吉郎	〃 6. 1.19	兵 庫 大	地質学鉱物学科 地史学講座	古生代・中生代の地史と古生物、特 に地殻変動と生物の変遷、近畿を中 心とする西南日本の地史の研究
工 学 部 師	宇多小路 豊	〃 5. 9.26	京 都 大	機械工学科 熱力学講座	境界要素法の応用研究
農 学 部 附属演習林 助 手	上 田 晋之助	〃 5. 5. 6	京 都 府立 農林専門 学校		森林土壌に關する研究

京都大学医療技術短期大学部教員停年規程により、次の方々が、本年3月31日付けで退職される。

部局・職名	氏名	生年月日	出身地 出身校	講座等	研究分野
医療技術短期大学部 教授	内田 耕太郎	昭和 6. 1. 2	大 阪 大 京	看護学科	脾臓を中心とする上腹部臓器に関する研究
〃	城戸 國利	〃 6. 2. 11	宮 崎 京 大	看護学科	妊娠母体と胎児の物質代謝に関する研究、妊娠中毒症及び糖尿病妊婦の管理に関する研究
〃	小 西 昭	〃 5. 5. 9	岡 山 京 大	看護学科	神経系の超微形態学的研究、医療関連職種教育の向上論
〃	藤 原 哲 司	〃 6. 3. 24	京 都 京 大	理学療法学科	神経内科学領域の疾患に関する臨床神経生理学的診断法、病態生理並びに治療法の解明に関する研究

平成6年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の期日等

平成6年度入学試験（第2次学力検査）を、次の予定で実施する。

○ 前期日程試験

月 日	教科	学 部	時 間
2月25日 (金)	国 語	総合人間「文系」 ・文・教育・法・ 経済「一般」	午前9時30分～ 11時30分
		総合人間「理系」 ・理・医・薬・農	午前9時30分～ 11時
	数 学	総合人間「文系」 ・文・教育・法・ 経済「一般」	午後1時～3時
		総合人間「理系」 ・理・医・薬・工 ・農	午後1時～3時 30分
2月26日 (土)	論 文	経済「論文」	午前9時30分～ 12時30分
			午後2時～4時 30分
	外国語	総合人間・文・教 育・法・経済「一 般」・理・医・薬 ・工・農	午前9時30分～ 11時30分
		総合人間「理系」 ・理・医・薬・工 ・農	午後1時～3時 30分
	社 会	総合人間「文系」 ・文・法・経済 「一般」	午後1時～2時 30分
	論 文	経済「論文」	午前9時30分～ 12時

○ 後期日程試験

月 日	教科	学 部	時 間
3月13日 (日)	国 語	総合人間・文・教 育・経済	午前9時30分～ 11時30分
		医	午前9時30分～ 11時
	数 学	総合人間・教育・ 経済	午後1時～3時
		理・医・薬・工・ 農	午後1時～3時 30分
3月14日 (月)	論 文	文	午後1時～3時
	外国語	*総合人間	午前9時30分～ 11時45分
		文・教育・法・経 済・医・薬・農	午前9時30分～ 11時30分
	理 科	理・医・薬・工・ 農	午後1時～3時 30分
	論 文	教育	午後1時～3時
		法	午後1時～3時 30分

(注) *総合人間学部（後期）の外国語の試験において、ドイツ語、フランス語を選択した者は、聞き取りテストを行わないので、午前9時30分～11時30分とする。

平成5年度国立学校施設整備事業の決定（追加）

平成5年度国立学校施設整備事業のうち、本学関係分（追加）は次表のとおりである。

部 局 名	構造・階	面 積	備 考
人 間 ・ 環 境 学 研 究 科 校 舎 (軸)	SR 5-1	10,790m ²	SRは鉄骨鉄筋コンクリート構造 Rは鉄筋コンクリート構造 Bは組積構造 5-1は地上5階地下1階
農 学 部 校 舎	R 4-1	1,780m ²	
生体医療工学研究センター研究棟	R 5	1,140m ²	
北 部 屋 外 運 動 場 夜 間 照 明 等		一 式	
事 務 局 本 館 改 修	R 2-1	(6,080m ²)	
工 学 部 校 舎 改 修	B 2, R 2-1	(3,510m ²)	
医 学 部 附 属 病 院 (クリーンルーム等)		一 式	
胸部疾患研究所附属病院 (クリーンルーム等)		一 式	
吉 田 地 区 基 幹 整 備		一 式	
理 学 部 附 属 火 山 観 測 施 設 改 修	R	(1,630m ²)	
防災研究所附属地震予知研究センター研究棟	R 4	1,620m ²	
防災研究所地震・火山観測施設整備等		一 式	

上記事業の実施に際し、工事周辺部におけるご協力をお願いします。

本学における歴史的建築物の指定

京都大学建築委員会

京都大学の歴史的建築物については、従来、「京都市の文化史から見て価値の高い建築物」と「大学固有の歴史にかかわる建築物」を保存する観点から調査検討し、別表のとおり保存指定してきたところである。

しかし、本学構内には、指定されたものの以外に、部局の創設とその発展の歴史を記念するにふさわしい建築物や明治から大正そして昭和初期に至る建築学的価値の高い建物が多数現存している。

大学の建築的環境は、単に現在の教育・研究機能を充足させるばかりでなく、この学園に学んだ先人達の学問的遺産を想起し、それを正しく継承

し発展させるにふさわしいものでなければならない。

現在、本学では各構内における施設長期計画の策定のため、各合同作業部会において検討が進められているが、これらの長期計画の策定作業の円滑を期するためにも、本学として保存すべき建築物を明確にする必要がある。そうした中で本学建築委員会において歴史的建築物として保存を検討してきた建物及び日本建築学会から、本学の歴史的建築物に指定されていない建築物で建築学的価値の高いものとして、本学に保存要請があった建物について、平成5年12月14日開催の歴史的建築物保存調査専門委員会及び建築委員会において審議した結果、次の建築物について、歴史的建築物として保存指定することに決定した。

なお、将来計画の推移によっては、外観をできる限り保存し内部についても利用等の便宜を考慮

し大幅な改修も認めうるという弾力的な配慮のもとに、この決定はなされたものである。

- ・事務局本館
- ・文学部陳列館（大正3年建築部分についてのみ）
- ・土木工学教室本館
- ・建築学教室本館
- ・農学部附属演習林旧本部事務室
- ・農学部表門及び門衛所
- ・旧教養部表門及び門衛所
- ・楽友会館

〔参 考〕

既に保存指定されている歴史的建築物

建 築 名 称	建築年代	構造	時期
旧 京 都 織 物 会 社 本 館 (現 東 南 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー)	1889 (M22)	B3	1
尊 攘 堂 (現 埋 蔵 文 化 財 研 究 セ ン タ ー 資 料 室)	1903 (M36)	B1	2
旧 石 油 化 学 教 室 建 物 (現 学 生 教 室 部 等)	1897 (M30)	B2	2
本 部 正 門	1892 (M25)		1
解 剖 学 教 室 本 館 標 本 室 (現 医 学 部 図 書 館 書 庫)	1901 (M34)	B2	2
解 剖 学 教 室 実 習 室 (現 解 剖 学 組 織 実 習 室)	1901 (M34)	W1	2
解 剖 学 教 室 講 堂 (現 解 剖 講 義 室)	1902 (M35)	W1	2
電 気 系 旧 本 館 (現 電 気 系 教 室 西 館 に 一 部 保 存)	1903 (M36)	B2	2
生 理 学 教 室 旧 研 究 室 (現 医 学 部 国 際 交 流 セ ミ ナ ー 室)	1914 (T3)	B1	3

新たに保存指定される建築物の概要

事務局本館

現本館は既に建設以来50余年の歴史を経て、本学の象徴的存在としての地位を確立している。設計は、建築学科教授武田五一によるもので、第4期に特徴的なゼツェッシェシヨンの意匠を随所に留め、日本におけるゼツェッシェシヨンの集大成作品である。また同時期の米国の建築家 F.L. ライトの細部手法も見ることができる。

文学部陳列館

文学部陳列館は本学における正統的様式建築の代表作品で、第3期を代表する建築でもある。山本治兵衛と永瀬狂三の設計で、正門入口の楕型ペディメント、外壁のモルタル目地切仕上のブーソアールなど当時の重厚な趣を伝え、ブローケンペディメント、楕円形の窓などはネオバロック的なデザインを示している。



文学部陳列館

土木工学教室本館

土木工学教室本館は本部構内に、煉瓦造建築による拡充が行われた大正初めの第3期に属する。本館はその時期を代表する建築物であり、その正面はアイ・ストップとなっていて、本部構内の景観構成の上でも重要な建物である。設計は永瀬狂三の担当によるものと思われ、正面は、やや煩雑な白い花崗岩の装飾が壁面に施され、第2期と比べ窓面が大きい。



土木工学教室本館

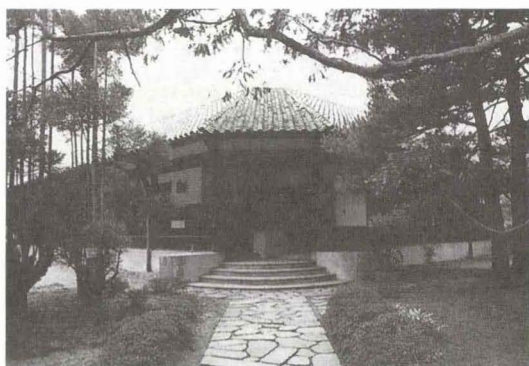
建築学教室本館

建築学教室本館は、建築学科の開設に力を尽くし、自ら初代教授となった武田五一の意欲作であり、第4期の始まりを画する斬新な意匠と構造に

よって高く評価される建物である。武田の好みであるゼツェッシオンの色彩の濃い意匠を有し、小豆色の外装タイル、正面入口上部の湾曲した壁面、あるいはゆるやかな円を描く階段室などは、意匠・構造の自由を表現し、以後、本学の第4期の建築物にその手法は及んでいく。なお本学における最初の鉄筋コンクリート造建築である。

農学部附属演習林旧本部事務室

旧本部事務室は、スパニッシュ瓦を載くバンガロー風の木造建築が前庭の芝生の中に浮かび、優れた景観をつくり上げ、北側の試験地とともにその景観の構成に大きく寄与している。設計者の大倉三郎の周囲の環境への配慮が窺われる。



演習林旧本部事務室

農学部表門及び門衛所

農学部表門及び門衛所は、分離派に参加した森田慶一の設計で、表現派的な大胆な意匠をみせながらも、日本瓦を載く屋根がその表現を抑え、北部構内の性格に調和したものとなっている。小品ながらも第4期の代表的作品で、本学における傑作のひとつである。

旧教養部表門及び門衛所

表門は大扉の上棧をアーチ状にデザインし洋風でまとめてあり、門柱と礎石との結合部に和風の追掛大栓継の手法を用いている。また門衛所は小規模なものだが、受付部分の屋根は寄棟造の隅棟を欠いて八角屋根のように見せ、居室部の切妻屋根と組み合わせている

楽友会館

楽友会館は鉄筋コンクリート造2階建の斬新な意匠をいまだ留めている。設計は、当時建築学科助教授に就任したばかりの森田慶一である。スパニッシュ・ミッション様式を基調としながらも、鋭利な玄関ポーチの柱などの意匠が、アムステルダム派的な円みをもつポーチの屋根に和らげられている。

日本の近代建築の秀作のひとつとして建築史的価値が高い。

建 築 名 称	建築年代	構 造	設 計 者	時期
事 務 局 本 館	1925 (T14)	R2-1	武田五一, 永瀬狂三, 坂 静雄	4
文 学 部 陳 列 館	1914 (T3)	B2-1	山本治兵衛, 永瀬狂三	2
土 木 工 学 教 室 本 館	1917 (T6)	B2	山本治兵衛, 永瀬狂三	3
建 築 学 教 室 本 館	1922 (T11)	R2-1	武田五一	4
農学部附属演習林旧本部事務室	1931 (S6)	W1	大倉三郎, 関原猛夫	5
農学部表門及び門衛所	1924 (T13)	R1	森田慶一	4
旧教養部表門及び門衛所	1897 (M30)	W1	真水英夫 (推定)	2
楽 友 会 館	1925 (T14)	R2-1	森田慶一	4

(時 期)

- 第1期 明治22年 (1889)～第3高等学校移転
- 第2期 明治30年 (1897)～京都帝国大学創立
- 第3期 大正3年 (1914)～
- 第4期 大正11年 (1922)～
- 第5期 昭和5年 (1930)～
- 第6期 昭和20年 (1945)～

(構 造)

- R……………鉄筋コンクリート構造
- B……………組積構造
- W……………木 造
- 2-1……………地上2階建地下1階

アメリカンフットボール部 クラブハウスの完成

本学アメリカンフットボール部の部室は、北部グランド南側の木造平屋建て（昭和11年建設）を使用してきたが、狭いうえに老朽化がひどく、以前から整備が強く望まれていた。

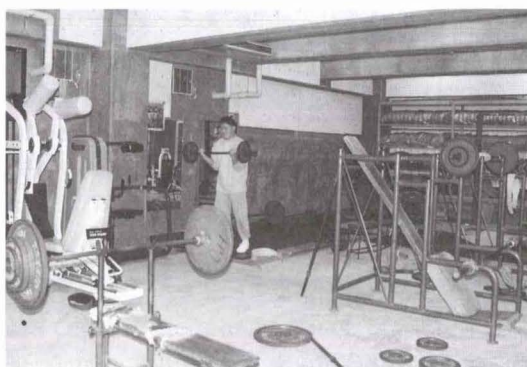
同部後援会（会長は沢田敏男元総長）はクラブハウス建設募金委員会（委員長は樋口廣太郎氏）を設立し、平成2年10月から広く一般に募金を呼びかけた結果、5億5,754万円の善意を得て、昨年10月29日に募金活動を終えた。同委員会はこの募金で土地及び建物を取得し、京都大学に寄付、このほど所有権移転の登記が完了した。



贈呈式は1月22日（土）午後にクラブハウスにおいて、井村総長、沢田後援会会長等関係者多数出席の下で開催され、水野彌一監督から建設までの経過報告の後、樋口委員長から井村総長に目録が、井村総長から樋口委員長に感謝状が送られた。

なお、同クラブハウスは、左京区田中大久保町に鉄筋コンクリート4階建（延べ床面積781㎡）が新築され、事務室、食堂、ミーティングルーム、ビデオルーム、風呂場、トレーニングルーム等を備えている。

（学生部）



トレーニングルーム

京都大学市民講座「かかわり」

講演要旨（その2）

人と人のかかわり

—医療従事者の立場から—

医療技術短期大学部教授 松本 雅彦

「病いは目に見えるものに還元できるか」という疑問から話をはじめたい。

「目に見える」ことを可視的というが、今日の医学＝科学は、あらゆる疾病を可視的な相のもとにもたらす営みの中で進歩している。血液検査などの数値化、グラフ化、X-線検査、CT-SCAN、超音波検査をはじめとする近年進歩著しい画像診断。遺伝子までもが模型図によって可視的な相のもとにおかれる。人が病院へ行けば、ほとんどの病いがこの科学的な検査技術によって解明されようとする。「検査づけ」といわれる所以である。病いという「コト」を可視的な相（モノ）に変換しなければ、その営みは「科学」という名には値しない。

この種の科学技術が、次々と新しい診断技法を生み出し、さまざまな治療法を開発させてきたことも否定できない。

しかし、「病い」は本当に「目に見えるモノ」（客観世界）に還元できるのか。人の「苦しみ」「痛み」「悩み」など（主観世界）は、可視的な相（数値、グラフ、画像）のもとにおくことができるのか。この「苦しみ」「痛み」「悩み」を、昨今

の進歩著しい可視的な医学＝科学技術で「癒やす」ことができるだろうか。今日のところ、それは不可能といわざるをえない。おそらく医学が「癒やし」の営みであるためには、この科学技術が「人と人のかかわり」という「目に見えない」＝「不可視の」力に支えられていなければならないであろう。

では、なぜ人は人とのかかわりを持とうとするのか。病み、老い、死に瀕する人たちは忌避、排除すればよいのではないか。しかし、忌み嫌いなながらも、人は、病い、老い、死となんらかの接触を持とうとする。それは、その人自身の内部に、病い、老い、死があることを「そのつとすでに」自覚しているからである。生の背後に、病い、老い、死が潜んでいること、それらネガティブな相があってはじめて人の生が十全な事態となりうることを知っているからである。

人は、病み、老い、死に瀕している人たちとの「かかわり」を通して、生きることの尊厳を感得しているのかもしれない。

(平成5年10月30日講演)

環 境 と 貿 易

—EC と NAFTA—

経済学部教授 本山 美彦

ヨーロッパ各国の繊維工業の上部団体であるCOMITEX（ヨーロッパ全繊維工業連合）とATA（米国繊維協会）との間で、1993年春、8項目からなる大憲章（マグナカルタ）が締結された。これは、途上国の攻勢に苦しむ先進国の繊維産業の保護貿易的姿勢を示すものである。以下、その内容を要約する。(1)世界には環境保護面でじつに不十分な対応しかしていない国々が多い。これが生産物の競争条件に不公平さをもたらしている。このような不公平さをなくすべく、環境保護政策の強化を世界的に促進しなければならない。つまり、今後は、承認できる環境条件下で生産された繊維製品に対してしか、国内市場の門戸を開かな

いことにする。(2)関税の減少と非関税障壁を撤廃する方向で市場経済指向をしている諸国間においては、すべての繊維、衣料市場を相互に開放することにする。市場経済化に努力している途上国に対しては、繊維取引で発生する問題の解決に努力する。(3)あらゆる形でのダンピング、国家補助金、輸出保護、知的所有権の侵害などを効果的に防止するために、国家的に決められた規則を改める。(4)取引協定の無視や、価格、製品表示、原産地に関する間違った申告に対する効果的な対策を採る。(5)国や企業が警告的罰則を効果的に出し、もっとも迅速に損害補償を取り付けることができるような取引協定の条項と監督システムを作る。(6)市場妨害や、それを許すような危険性が見られたとき、迅速に対応する保護機能をもつシステムを作る。(7)市場経済でない国々、または国家保護による取引妨害ができる体制から民主主義に移行するさいに処理せねばならない問題についての特別規則を作る。(8)繊維、衣料部門の従業員が、囚人や奴隷のような労働、年少者労働、非人間的労働条件などから解放されるために、すべての国は信念をもって、社会的最低基準の導入を図らねばならない。

こうした内容をもつ大憲章に参加するように、ドイツ全繊維工業連合が、1993年5月、日本紡績協会に呼びかけ、同協会はCOMITEXを訪問して、欧米側に同調する姿勢を固め始めた。この大憲章は、環境基準の策定、市場経済化への誘導、きめ細かい貿易協定の締結、人権問題の重視、といった点に特徴がある。つまり、貿易のグローバル化と政治化とが、環境保全をキー・ワードとして押し進められ、グループ以外の参入障壁を強くするという新しい保護貿易形態の台頭が、深刻な経済不況に苦しむ先進諸国に広がり始めたのである。

ドイツ全繊維工業連合は、COMITEXと共同で、テキスタイル品に環境マーク（ユーロ・ラベル）の表示と、その対応生産方式を義務づける案を検討している。これによって、大憲章に参加する協会をもつ各国政府は、ユーロ・ラベルに相当するものを、それぞれの協会から申請されれば反対できなくなる。1992年6月の地球環境サミットで環境保護協定に各国が署名しているからであ

る。環境技術の良否によって、繊維貿易が大きく影響を受ける時代がそこまできていることだけは間違いない。世界的レベルで協定が結ばれようとしているとき、日本のみが蚊帳の外というわけには行かないだろうと思われる。

事実、この種の環境協定は、繊維産業のみならず、自動車、家電製品等々の広範な分野で検討されるようになってきている。それは、環境行政の貧困な国の原材料を使用する先進国製品にすら適用されようとしているのである。これまでの自由貿易論の通用する範囲は限定されるようになったし、貿易の新たな地域主義の台頭が不可避だからである。

(平成5年11月6日講演)

近代日本の「教養」

—日本人と「教養」のかかわり—

文学部助教授 筒井 清忠

日本で近代的な意味での教養の観念が成立したのは明治末期だった。明治末期の修養ブームの中にそれは含まれていたのである。大正初・中期にかけて、和辻哲郎らによって、教養は修養の中から自立してくる。そして旧制高校生をその主な担い手としていた。従ってそれは学歴エリート・カルチャーという傾向を色濃くもっていた。

大正後期から昭和初期にかけては、マルクス主義が学生文化の中で大きなウエイトを占めたため教養主義は一定程度の後退を見せた。

そして、昭和十年代の戦争の時代に、教養主義はむしろ完成したのだった。阿部次郎・倉田百三・和辻哲郎そして京都学派の哲学者たちの書物がユース・学歴エリート・カルチャーのスタンダードとなったのはこの時期だった。このスタンダード化に際して河合栄治郎の果たした役割は大きかった。彼の編集した『学生叢書』が決定的意義をもっていたのである。

そしてこの時、教養主義は軍国主義に対する防波堤として大きな意味をもっていたのだった。

終戦後も教養主義の学生文化に占める大きな地位には基本的な変化はなかった。というよりも昭和二十年代から三十年代にかけての戦後民主主義の全盛の時代ぐらい、教養や大学生のイメージが崇高に思われていた時代はなかったといってもいいだろう。(とりわけ二十年代前半)。

大きな変化は昭和四十年代から五十年代にかけて訪れた。この時期、大学は一挙に大衆化し、学生文化の中心はエンタテインメント系のものへと大きく転じていったのである。この時期に教養主義の影響力は大学キャンパスから後退していったのだった。

そうしてみると教養主義は、現在、歴史的使命を終えたというべきなのだろうか。私はそうは思わない。「文化の獲得を通して人格を高めていく」という教養の基本理念はおよそ全ての知的営みに従事する人間が譲ってはならないものであろう。まして大学人がこれを失うことは自らのレゾン・デートルを失うようなものである。しかし、現在の時点で教養を擁護するためには、近代的な教養主義に対する十分な反省が必要である。そのためには、その権威主義的性格の克服、大衆文化との適切な関係の設定、方向性をもたないたんなる雑多な知識の堆積の傾向への対策、などがまず考えられなければならないであろう。

(平成5年11月6日講演)



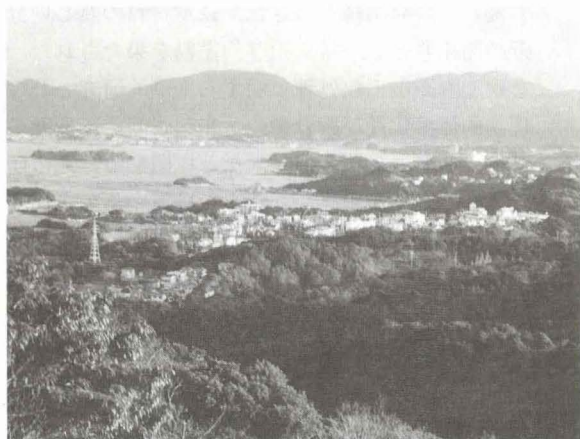
市民講座

<紹介>

農学部附属演習林
白浜試験地

白浜試験地はJR線白浜駅から路線バスで10分、白浜温泉街の手前にあり、交通至便である。白浜町は京都大学理学部の臨海実験所、防災研究所の海象観測所をはじめ大学の施設が多く、アカデミックな雰囲気をもった風光明媚な観光地である。本試験地の設定は昭和25年（1950）、田辺市の篤林家多屋氏所有の山林と白浜町有林に50年間の地上権を設定したもので、既に44年が経過した。面積は60ha弱、海拔1～158mの北斜面に位置し、京都大学演習林の中では唯一海に面し、またきわめて温暖である。天然林はヤマモモ、ヒメユズリハ、クロバイ、ウバメガシ、ネズミモチ、タイミンタチバナなどの海岸性照葉樹林からなり、林地はやせ地である。設定当時における天然林の面積は20%で、残りは薪炭林として利用された皆伐跡地であったため、20年代後半から30年代にかけてはスギやヒノキ林の造成や、やせ地でも旺盛な成長を示すアカシア、ユーカリと主に外国マツを用いた林地の改良が試みられた。この過程で、大阪営林局管内の天然スギを集めた生育比較試験、密度試験、精英樹の検定試験も行われている。

今までに行われた試験研究の中で当初から最も力が注がれてきたのは主に亜熱帯性の外国産樹種の導入試験である。本試験地の試験研究は戦前期



田辺湾を見おろす白浜試験地

の京都大学台湾演習林の流れをくみ、初期にはアカシア、シナアブラギリ、コルクガシ、クスノキ、タケ類などの植栽が試みられ、30年前後よりユーカリやテーダマツ、スラッシュマツなどの外国マツの導入が始まった。これら外国産樹種の導入、育成にとって画期的な出来事は昭和44年（1969）に阪本奨学会から寄付を受け、設置された温室の完成である。40年代にはフトモモ科のカリステモン属、メラレウカ属、ヤマモガシ科のバンクシア属など、導入種は亜熱帯性の造園観賞樹木を中心に飛躍的に増加した。これらは海外、国内の27か国76か所の大学、植物園との種子交換システムによって収集されたもので、南半球のオーストラリア、ニュージーランドや東南アジア及び香港、中国南部、台湾などを原産地とするものが多い。現在、その数は75科186属、2,000種に達し、50科111属397種が生育している。導入種子は温室内で植木鉢に播き、播種翌年、早いものは発芽後数週間でジーフィーポットか小鉢に床替えする。生育良好なものは1年後に苗畑から見本林に定植する。アカシア、ユーカリは導入種数が最も多く、それぞれ200種を超え、その中でモリシマアカシア、メラノキシロンアカシア、フサアカシア、グロブルスユーカリ、ロプスターユーカリ、サリグナユーカリなどは成長が良く、林分を形成するものもみられ、観賞用として優れた種も多い。

本試験地の研究テーマのもう一つの柱は林木施肥の研究である。当地がきわめてやせ地であったこと、この研究部門が戦後の林学研究で大きな比重を占めていたこともあって、「林木肥培に関する研究」が精力的に行われた。研究の内容は窒素、リン酸、カリウムの3要素適量試験、スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツそしてアカシア、ユーカリの種間の施肥効果の比較、施肥時期、床替密度、植栽密度、ライシメーターによる養分の流亡に関する試験、林地肥培試験などである。マメ科の肥料木であるアカシアとクロマツとの混植試験なども行われ、その結果、試験地面積の3分の1にスギ、ヒノキ、アカシア、ユーカリ、外国産マツなどが人工植栽されている。

白浜町では平成7年度開港を目指して南紀



導入されたバンクシア

白浜新空港の建設が急ピッチである。そのため、近年、試験地でも滑走路用地として一部地上権を解除した。現在、試験地では現地職員3名で、残された借用期間で今までの試験研究の集大成に余念がなく、そして今年度からはさらに海岸地域の酸性雨の観測を開始した。なお、研究のため多くの方に試験地を利用していただきたいと考えている。入林を希望される場合は事前に附属演習林計画掛 (Tel 753-6420) 又は白浜試験地 (〒649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町立ヶ谷 Tel 0739-42-2803) に連絡されたい。

(農学部附属演習林)

計 報

高 澤 淳 夫 総合人間学部助教授

本学総合人間学部助教授 高澤淳夫 先生は、1月7日逝去された。享年47。

先生は、昭和45年本学文学部を卒業、同51年本学大学院文学研究科博士課程(社会学専攻)を単位取得退学後、本学文学部助手、佐賀大学教養部助教授、京都府立大学文学部助教授を経て、昭和60年本学教養部助教授、総合人間学部発足にともない、平成4年同学部助教授に就任された。

先生は、フランスの社会学者E.デュルケームの思想研究を足がかりにして、「制度と個人」という社会学固有の問題についての考究を積み重ねられ、幾多の業績をあげられた。さらに近年は、数量社会分析、数理社会学の方面への関心も深められ、これらの分野でもすぐれた業績をあげられた。

またこの間、学生の教育・指導に熱心に取り組まれ、後進の育成に尽力された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(総合人間学部)

田 村 今 男 名誉教授

本学名誉教授 田村今男 先生は、1月8日逝去された。享年70。

先生は、昭和23年大阪大学工学部を卒業後、大阪大学工学部助手、同産業科学研究所助教授、本学工学部助教授を経て昭和39年工学部教授に就任、同62年3月停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生の専門は、特殊鋼学、鉄鋼材料学で、鉄鋼の相変態と力学的性質、加工熱処理、熱間変形挙動、拡散変態の速度論などの研究において数多くの優れた研究業績を残され、鉄鋼材料の新しい分野の開拓者として常に指導的役割を果たされた。なかでも、加工熱処理に関する基礎的研究とその理論的体系化及び鉄合金のマルテンサイト変態の形態、変形、形状記憶効果などに関する一連の研究は広く内外から高い評価を受けている。主な著書に『鉄鋼材料強度学』、『鉄鋼材料学』、『Thermomechanical Processing of High Strength Low Alloy Steels』等がある。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(工学部)

